

多様な機能を解説

ミラクルソル協が

金沢で技術講習会

ミラクルソル協会(原裕理事長)は22日、金沢市のKKRホテル金沢で2018年度(第22回)ミラクルソル工法技術講習会を開いた。写真。

ミラクルソルはガラス廃材を再資源化した多目的環境材料。多孔質間隙構造で軽量かつ強固な特性を持つ。吸水性



と非吸水性があり、斜面緑化や軽量盛土材などに利用可能で、同協会ではこれら建設分野に有効利用する技術・工法の普及に努めている。冒頭、原理事長は、「ミラクルソルは1995年に国の助成を得て開発し、以来、毎年各地で講習会を開催して今回が22回目となる」とあいさつした。

講習では最初に元国土交通事務次官の佐藤直良先端建設技術センター理事長が「社会資本の未来に向けて」と題し特別講演。続いて原理事長が「多目的環境材料ミラクルソルの活用技術」をテーマに、環境土木・環境緑化工法への具体的な適用事例などを説明した。また、同協会の荒木宏之顧問が「環境材料ミラクルソルの魅力」の演題で環境分野で発揮されるミラクルソルが持つ多様な機能を解説した。

CPDS(継続学習制度)
・CPD(継続能力開発) 認定講習。北陸地域の行政機関、建設コンサルタント、建設企業など約80人が受講した。